

1. 見出し インタビュー：小川和也駐ボスニア・ヘルツェゴビナ日本大使

小川大使に日本とボスニア・ヘルツェゴビナ（以下 BH）の経済関係、日本企業から BH への投資、人道支援、文化協力についてインタビューした。

2. （両国間の経済関係に関する評価、今後発展し得る分野如何との問いに対し）BH に対しまだ日本からの直接投資はない。来年は外交関係樹立 20 周年に当たるので、貿易と投資の可能性を探る経済ミッションを日本から招致したいと考えている。

3. （日本企業の対 BH 投資への関心如何との問いに対し）BH には、特に農業、エネルギー、観光の分野で潜在能力があると考えている。日立がトゥズラの火力発電所プロジェクトに応札しなかったことは痛手であった。もし成功していれば他の日本企業の投資を促進できた。BH は紛争のイメージを変え、世銀のビジネス活動容易度ランキング 107 位の汚名を返上して日本からの投資を誘致すべきである。

4. （BH の現下の政治情勢に関する評価如何との問いに対し）着任後 2 ヶ月で未だ観察段階である。国レベルではまだ政治は紛糾しているが、紛争から 20 年たっており紛糾に終止符を打つべき。政治家は国民のことを考えるべきである。

5. （前任大使は BH の指導者に批判的であったが、同じ意見かとの問いに対し）部分的には山崎大使を支持するが、ここでの経験が未だ十分ではないので見極めるにはもう少し時間が必要だ。

6. （日本は BH において戦後最大のドナー国の一つであるが、これまでどのくらいの援助がどのような目的で行われたのかとの問いに対し）1996 年以来、支援の総額は 10 億 KM に上る。これにはインフラ整備、教育、輸送、農業分野および昨年の洪水被害に対する支援を含んでいる。日本は今後も BH への支援を継続し、EU 加盟を支持する。

7. （今年はどうのような人道支援計画があるのか、との問いに対し）草の根・人間の安全保障無償資金協力と呼ばれる援助で、水供給、初等教育、地雷撤去などの計画がある。この 7 月には 130 万 KM に上る洪水被害地域の地雷除去計画に署名した。そのほか、現在 10 あまりのプロジェクトを実施中である。

8. （10 月には新たな日本語講座が始まるが、この講座は二国間の文化協力にどのくらい貢献しているのか、との問いに対し）この講座は 3 年前に始まったが、年々生徒数が増えている。修了証書授与式に出席したが、生徒たちはよく学んでいる。

9. （努力した生徒に対して日本旅行の機会があるかとの問いに対し）概して言えば生徒の日本語能力は高いので、12 月には日本語能力試験が実施される。大使館が日

本への旅行をアレンジすることはないが、生徒には相互連結を実現し、自らの意思で日本へ旅行する機会がある。

10. (2011年の津波で福島原発が被害を受けた。日本はこの被害の影響に対応できているかとの問いに対し) 被災地は徐々に復興しているが、原子力災害の復興には時間がかかる。損傷を受けた原発の制御は出来ているが、核燃料や廃棄物を抽出する必要がある。以前の状態に戻すには、これらを除去し、適切に処理しなければならない。